

15. 牛乳の価値向上に向けた取り組み

西部振興局

○森本剣介、繁田政豊

【背景】

近年、消費者の食に対する意識が非常に高まっており、特に安心安全については重要視されている。酪農家における良質乳の生産には飼養管理による乳成分の向上に加え、生乳処理室をはじめとした牛舎環境の衛生管理が重要であり、生乳が食品であるということを意識した適切な管理が必要である。

このような情勢の中、(株)明治は牛乳の価値向上を目的とした良質乳生産酪農家認定表彰制度を実施している。この取組は2009年より全国の酪農家を対象に行われているが、大分県ではまだ実施されていなかった。

そこで、西部振興局はいち早くその重要性を認識し、大分県酪の日田クーラーステーションより日量約50t、日田市で生産される生乳の約半分を明治の九州工場に送っていることもあり、西部地区の酪農家を対象として、認定取得に向けた取り組みを行った。

明治の認定制度

活動理念を酪農と乳業が永続的に繁栄し続けること、目的を酪農の価値を消費者に理解、高く評価してもらうこととし、その牧場の牛乳を飲みたくなるような牧場づくりを進める取り組みと位置づけ、中央酪農会議の生産管理マニュアルに基づき以下の基準を設けて認定を行っている。

・認定基準

第一認定 バルク室等の生乳処理室の美化・衛生管理

第二認定 牛舎・牧場全体の景観美化

第三認定 機械の点検、搾乳などの衛生的な作業

【目的】

1. 飼養管理・衛生管理の徹底

ポジティブリスト制度の施行により、現在、酪農家は中央酪農会議が作成した生乳生産管理チェックシートへの記帳および記録の保管により安全性の確保を行っている。大分県でも年に2回、チェックシート巡回として関係機関が確認を行い、牧場の飼養管理、生乳の衛生管理の指導を実施している。しかしながら、形式的なものになっており、現状確認によるその場だけの指導のところもあって、継続的な改善までできていないのが実状である。そのため、今回の認定制度を進め、改善に向けて繰り返

し指導を行うことで、飼養管理および生乳の衛生管理に対する効果的な指導ができると考えられる。

2. 生産者のモチベーション向上

酪農家は指定団体による一元集荷・多元販売のもとで経営を行っているため、外部から自分の牧場を評価されることが少ない産業である。そのような状況で認定・表彰を受けることが牧場の評価となり、経営をしていく上での生産者のモチベーション向上につながる。さらに、この評価は乳業メーカーのお客様である消費者にも目に見える形となるため、実際に牛乳を口にする消費者へのアピールや評価にもなると考える。

3. 差別化・付加価値

また、認定を受けることは、今後、経営を続けていく上で、将来的にメリットとなる可能性があると考えられる。今すぐ乳価に反映するわけではないが、この先、消費者の理解が得られれば、認定を受けていないところとの差別化が図られ、付加価値がついて乳価に差が出る可能性もあり得る。

さらに、今後、流通形態が変化していく可能性がある中で、業界シェアトップである明治の認定を取得しておくことで、安心安全に配慮した生乳生産者であることが保障され、優先的な取引となり得ることも考えられる。消費者のことを考えた生乳生産すなわちマーケットインのモノづくりにつながる。

これは園芸品目における GAP の考え方に似ており、園芸では大手の民間企業が独自の GAP を制定し取引条件としているなど、GAP 認証を取得していることがスタンダードとなりつつある。

以上のように、生産者にとってメリットとなる可能性の高い認定制度は、いち早く取組を開始して認定を取得することが重要であり、現時点では大きなメリットがなくとも、将来のことを考えた保険としての役割を果たす。

これらのことを踏まえ、将来的に優位に酪農経営を進めていくため、認定取得に向けた推進を行った。

【活動内容】

1. 対象：日田酪農組合（28戸）、玖珠酪農組合（7戸）
2. 活動：
 - (1) 役員会、総会において、組合員への周知と合意形成
 - (2) 各生産者を個別に巡回し、理解の醸成
 - (3) 認定取得にむけた改善指導
 - ①判定審査、現状確認
 - ②審査報告書提出
 - ③進捗確認、改善推進

④最終審査

⑤認定、表彰

取り組みを進めるにあたり、生産者の中には積極的に取り組んでくれる方とそうでない方がいたが、積極的に取り組んでくれる方はもともと意識が高く、「消費者のことを考えれば衛生管理は当たり前だ」、「自分の牧場をもっと評価してほしい」とすぐに認定に向けて取り組みを開始できた。一方でそうでない方は、「認定をとったところで乳価が上がるのか」、「外部の人にあれこれ言われたくない」といった否定的な意見が多く、なかなか進まなかった。そういった方でも少なからず衛生管理の重要性は認識しており、認定を受けるメリットを真摯に根気強く説明して、理解してもらい、まず第一認定の取得にむけて改善を進めた。

具体例としては各審査項目について以下の様な改善を行った。

- ・ 処理室内は整理・整頓されており、清潔で異臭がない
不要物の撤去
道具等を整理整頓し、処理室に関係ない物は仕切りをする
バルククーラー、床の清掃
- ・ 処理室は牛舎と隔離されており、施錠管理されている
外からの動物等の侵入を防ぐため、壁の張り替え、隙間をパテ等で塞ぐ
- ・ 処理室に、洗剤・殺菌剤以外の薬品を置かない
乳房炎軟膏などの医薬品を別の場所で適切に保管

【活動成果】

1. 第一認定取得農家：3戸（日田：2戸、玖珠：1戸）
2. 生産者の意識の改善
以下の様な意見が得られた。
 - ・ 消費者のことを考えて生乳の衛生管理をする
 - ・ 綺麗になって気持ちよく作業ができる
 - ・ 自分の牧場が評価されてうれしい
3. 作業効率の改善

【今後の課題】

まだまだ取組の趣旨は理解しながらも、改善に消極的な生産者もいるため、認定を取得した生産者の優良事例の構築し、広く周知して推進していくことが必要である。

また、地域住民、環境問題のことも考慮すると、第二、三認定取得にむけた取組を継続的に進めていくことが必須である。

地域の酪農組合として認定を取得することは、この先、出荷する生乳の安心安全が保証され、産地としての維持、活性化が期待できると考える。